２０２５年３月１日　【清真学園 校長室だより】　　１年を振り返る

生徒達に対して、今年度は折に触れ、改めて、時間の大切さを伝えてきました。若い時分には、誰しも自分には無限の時が与えられているかのような錯覚をしがちなもので、私自身も決して例外ではなかったとの反省から、清真生には、今こそ時間の大切さをより強く自覚して、集中して目の前の課題に取り組み、成果を上げて欲しいとの強い思いがあります。

それにしてもやはり時間の過ぎるのは本当に早いもの。まさに、Time flies like an arrow.（直訳：時間は矢のように過ぎる　意訳：取り戻すことのできない時間を無駄にしない）です。昨年４月の体育祭からもう１年。来月にはまた、次の体育祭が巡ってきます。実行委員長選挙・組閣・認証式を経て、実行委員会はすでに、本格始動をしています。創陵祭もまた、然りです。

オープンスクールなどの折によく、清真が考える「学校の本当の役割」について触れることがあります。興味や関心の異なる一人ひとりの生徒の能力を開花させる（福澤諭吉はこのことを（発育）と定義しています）ために、様々な機会や場面、しかけを用意できる役割を果たす学校でありたい続けたいと考えます。SSH 校としてのゼミ活動の中に数多くの文系ゼミを設置しているのも、おそらくそのことに由来しています。

そのような教育環境のもとで、近年の清真生の活躍には目を見張るものがあります。ここで一つひとつに触れることはできませんが、場面を活かし、自らの成長につなげてくれている生徒たちは枚挙にいとまがありません。詳細については、ぜひ、ホームページ等でご確認いただけますと幸いです。

初めての【清真学園 校長室だより】、２０２４年１月１日号には、このように記しました。「清真の子どもたちは、素材として申し分ありません。彼らは皆、おしなべて、とても素直で柔軟です。」今回のたよりをお届けするまで、このことを様々な場面で確認することができました。素直で柔軟で優秀な子どもたちが、清真独自の教育プログラムの元で、日々、大きな成長を遂げています。次年度も、ぜひ、清真の教育にご期待下さいますようお願いし、今年度の最終号とさせていただきます。ご愛読ありがとうございました。